

〔議会報告会～ぎかいタウンミーティング〕

常任委員会・テーマ	ぎかいタウンミーティングでの意見・要望等
《総務委員会》 テーマ 「子どもたちの教育について」	○子どもを取り巻く環境は、いじめ・不登校など様々な問題が山積している。全国的にいじめ、自殺、不登校が増えているようだが、岡谷市ではこのようなことが起こらないよう、教育長に強く伝えてほしい。 ○学校の見守り隊をやっているが、いろんな子どもたちが通ってくる中で、あいさつすることは、とても社会勉強になっている。また、野菜づくりや、蚕を育てることは相手を知ることにつながっている。他人を思いやる気持ちが大切であり、いじめ・不登校はなくなると思う。 ○少子化となり、小中学校は1クラス30人もいない。さまざまな家庭環境の子どもたちがいて、その中で授業を受けている児童・生徒たちは、ストレスを感じているのではないか。 ○思いやりの気持ちというものは、相手を中心に考えることが大切である。その中で不登校になったお子さんがいたら無理に学校へ行かせなくてもいいのではないか。 ○今は昔と違って、差別的な見方は大部少なくなっているのではないか。 ○現在、障がい者と健常者が同じ環境で教育を受けることが可能となっているが、その子の障がいに即した特別支援学校で、専門的な教育を受けることも必要ではないか。 ○岡谷市の良いところは、観光・産業などが盛んであることだ。「ものづくり」をしっかりとアピールし、授業にも取り入れていただきたい。 ○岡谷市は、「ものづくり」がすばらしい地域である。小中学校、高校で、そのすばらしさを伝えてもらいたい。又、高校生の職業体験など、積極的な取り組みをしてほしい。
《社会委員会》 テーマ 「子育て支援について」	○東堀区の地域福祉支援センターで、区が取り組んでいる子育ての情報誌を発行している。現在、団体ごと子育て支援を行っているが、区として総括的に対応できないか、体制作りなどの検討を進めている。 ○区に加入していない方の子育て支援はどうしていくかというのは、実際、区費を払っていないので平等にみることは難しい。そういった面で偏りがあり、一つの悩みとして捉えている。 ○岡谷市の人口をこれ以上減らさないためにも、市は子育て支援に重点を置いている思い切った予算措置により、目にみえる形の支援をしたほうがよい。 ○岡谷市子ども読書会議で、各小学校が取り組んでいる子どもの読書活動の報告があったが、子どもの発表の仕方で声が小さいことを感じたので、そのあたりを指導してもらえば、すばらしい会議になるのではないかと思う。 ○男女共同参画推進市民の会において、お母さん方にアンケートを実施したが、「もし働きやすい環境だったら働き続けますか」という問いに、75%の人がそうだと答えている。自分の子どもは自分で育てたいという人もいるが、大部分が働き続けたいと思っている。 ○岡谷市の人口減少問題に関して、子育てが充実してくれば、ここに定着し生み育てながら働き続けたいという人が増えてくると思う。 ○子どもがいらないと思っていて子どもの数が減っているわけではなく、育てられない環境があるから子どもの数が減っていると思う。 ○働き続けながら子育てができますという企業は、岡谷市の企業の中でも取り組みがはじまっている。子育てしながら働き続けられることが、女性の人生にとってのネックになる。 ○未満児保育の充実、子育てしながら働き続けられる企業、イクメンの育成という部分で男性も子育てに参加できる。この3方からの施策がほしい。 ○女性が活躍できる社会にしようと言っているが、なかなかできない理由は夫の協力がある。イクメンについては企業や行政の政策の中にほしいと思う。子育てを男性も女性も担っている社会だと、女性も働きやすい社会になると思う、保育園の充実とともに、イクメンの育成という部分も検討いただきたい。 ○これからの社会において、労働力不足を補うには女性が一人前に働ける社会をつくっていかねばいけない。 ○自分には子どもがないので、自分の命を引き継ぐ者がいないとうことは大変さみしく感じている。 ○女性が家庭をもって専門的な仕事を続けるというのは本当に大変なことである。女性にかかるウエイトは大きいので、勤めやすい職場環境をつくるのが大事である。

	○女性が長く勤めるには、出産がネックになっていて、職場に気兼ねをしている。 ○子どもを育てる親の教育の必要性を痛感している。(子供のしつけなど) ○県が推進している「やまほいく」に対する補助は、塩尻市は、第3子無料で第2子は半額である。岡谷市には補助がない。実際、岡谷市では満たされない教育を望む方が松本市へ通っている。自由選択であるが、その人たちは交通費をかけながら保育料を払っている。少人数の人にも手を差しのべていただけたらありがたい。 ○働きたいというお母さんの気持ちは理解できなくないが、できれば3歳までは、最低でもみてほしい。 ○働くお母さんの支援だけでなく、働かないお母さんの支援もしてほしい。 ○上の原小学校は岡谷市内でも人数が少なく、家の子が入学する時は34人1クラスになる。34人1クラスはとても多いと感じた。 ○オルルタナティブスクールという自由学校を見学してきたが、学校を気に入れば家族で引っ越してくる方もいる。
《産業建設委員会》 テーマ 「土木要望について」	○議員はしっかり歩いてものを見ているのか。例えば看板など非常に汚れている。 ○観音橋は傷みが大きいが、行政としてどうしていくのか。 ○横河川の土手の草刈りは、区によって実施時期が異なり統制がとれていない。このようなことに対して行政がどのように関わっていくのか。 ○防犯灯については、昼間つけっぱなしであるので、センサーが壊れているのではないか。年間1,500万円ほど電気代がかかっているが、つけっぱなしの状態でのいいのか。東日本大震災の影響により節電の方針がある中で、このような実態があることについて議員はどのように考えているのか。 ○行政側が判断し直すことなどを、なぜ市民に要求をしてくるのか。行政は自分たちで積極的に実施することが行政としての仕事ではないか。 ※商業の活性化についての意見 ○岡谷市は、中心市街地に集中していく方向で、今動いている。買い物難民とか住民福祉、そういった意味で高齢者の足をどうするのか。今のような状況だと地域に残っていくのはおそらくコンビニくらいではないか。 ○インターネット、通販で購入など、このような時代の流れは止めることはできないが、個性ある商店などは、行政として育てていく方向で考えてもらいたい。 ○人が集まる場所に商店ができること、人が集まる場所をつくることが行政の仕事である。 ○シルクファクトおかやには、食事をとるところがなく、シルクファクトおかやでは、食事処の地図を配っているが、このような状況がよいのか。
《議会全般》 議会全体に係ること	○議会報告会の開催を新聞等でアピールし、参加者を募ったほうがよいのではないか。 ○意見交換会はとてもよい機会であるので、区会議員にも聞いていただければよかったと思う。周知方法について、区長などに話をしてみてもどうか。 ○市議会だよりの記事の中で、誰が発言したのかが記載がされていない。議員は緊張感と自分の発言に責任をもってもらいたい。 ○議会報告会への参加者については、今回11人しか集まらなかった結果の中で、やり方等を考えていただきたい。 ○議会報告会を各地区で開催することは、とても良いことなので、今後検討をされてみてはどうか。